広州日本人学校　帰国報告

平成２１年度派遣
現　幌加内町立幌加内中学校
教諭　　高田　正人

１　広州市について

（１）地理・行政区画・人口

広州市は中国の南部広東省の省都であり，華南地区最大の都市である。珠江デルタ地帯北部に位置し，１０の区と２の県級市からなる。面積は約７，４３５ｋ㎡（市街地約３，７１９ｋ㎡）である。

人口は約１，２００万人。他省からの出稼ぎ労働者などの広州戸籍を持たない居住者を加えるとさらに３００万人ほど増えるといわれている。

広州タワー（６００ｍ）

（２）気候

北緯２３度に位置し,亜熱帯気候に属する。年間の平均気温は２２.８度，平均湿度は７７パーセントである。高温多湿で長い夏と低温少雨，零下にはならない暖冬が特徴といえる。また，年間を通して緑が豊かで花々が咲くため「花城」ともよばれている。

（３）歴史

広州は２０００年以上の歴史をもち，秦の時代から　始まったとされ，中国で最も古くに開かれた貿易港で海のシルクロードの起点として栄えてきた。

また，１８４０年にアヘン戦争が起きた場所としても知られており，この戦争後に英仏の租界地となった。

１９１１年，辛亥革命の指導者孫文は広州の近隣の町の出身であり，広州を拠点に活動したことから，孫文ゆかりの地としても知られている。

世界各地にいる華人は，ルーツを広東省を中心とした華南地域としている。世界文化遺産に登録された開平楼閣と村落は，楼閣は華人が故郷に建てた建造物とされている。

（４）経済

経済開放政策（経済特区）後の経済政策により，１９８４年に広州市は経済技術開発区に設置され，多くの海外企業が集まるようになり，経済が大きく発展し，現在では上海・北京に次ぐ経済成長を遂げている。日本からも自動車・電気製品・電子部品・食品工業の企業が次々に進出している。

また，年二回開催される「広州交易会」は中国最大の輸出商品商談会で，世界各国から多くの関係者が集まりにぎわう。

（５）文化（食文化）

広州市の属する広東省は中国四大料理の一つ広東料理の本場であり，「食在広州（食は広州にあり）」と言われるように，海　産物や肉，野菜などの豊富な食材の持ち味を活かした　あっさりとした味が特徴である。しかし，時々何の肉（魚）か分からない料理もある。バナナ，マンゴー，ライチなどの熱帯性の果物が豊富である。

（６）日本とのつながり

日系の自動車・電子部品・電気機械の企業や工場は　広東省内で約２，０００社（２０１２年１０月）であり，中国国内でも企業進出が多い地域の一つとなっている。日系の企業進出にともない，日系のスーパーや飲食店,衣料品店，医療機関，不動産などの生活関連の日系企業も数多く存在する。広東省内の在留邦人は１８，１９３人（２０１２年１０月）で広州市では５，０００人と言われる。

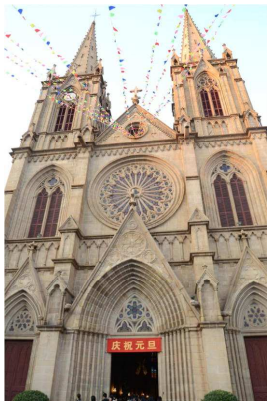
中山記念堂

開平楼閣

門のある町並み

アヘン戦争砲台跡

沙面（洋風建築）



キリスト教会

子ブタの丸焼

点心（飲茶）

豊富な果物

日系企業の進出

2　広州日本人学校の教育活動

（１）概要（学校要覧より抜粋）

校舎外観

本校は，昭和５７年（１９８２年）１０月開校した広州補習授業校（児童３名，講師１名）がその前身である。当時は，領事館のあるホテルの一室を借り授業が行われていた。その後，平成７年（１９９５年）４月広州日本人学校（児童１７名，生徒１名，計１８名）として開校し，平成９年には広州一の高層ビル中信ビルへ移り，平成１５年に現在の地に校舎を建設した。そして，１０周年を迎えた平成１８年３月に　は，増築校舎が完成し，現在に至っている。

平成２５年（２０１３年）５月１日現在の児童・生徒総数は小学部（３３７名），中学部（８４名）合わせて４２１名，教職員は４０名である。

（２）特色ある教育活動（平成２５年度）

①語学教育

ア）中国語会話

小学部・中学部共に週一時間，中国語会話の授業を行っている。小学部５・６年と中学部は習熟度別の２つに分かれての授業を実施している。

イ）外国語活動・英会話

小学部では１年生から４年生まで週一時間，５・６年生は週２時間２つのレベルに分かれて英会話および外国語活動を行っている。中学部はＡＬＴが毎時間授業に入っている。さらに英語検定も実施（準会場校）しており，小・中学部全学年から相当数が受験している。毎回，小学部からも英検２級合格者がでる。

②国際理解教育・現地理解教育

ア）現地校との交流

小学部は東風東路小学校の児童と，中学部は　　大学日本語学科の学生との交流を年２回行っている（訪問・受け入れ）。日中双方の文化や遊びなどを通じ，児童および学生との交流を図っている。

イ）伝統文化を学ぶ会

中国の伝統や文化に触れることにより，異文化を理解し，尊重しようとする気持ちを育てる目的で毎年行われている。平成２５年度は変面や雑技を鑑賞した。

ウ）その他

校外学習の一環として小学部３年生は日系スーパー，４年生は消防署，５年生は日系自動車工場，６年生は博物館を見学，中学部３年生では日系企業数社を訪問する職場体験学習を行っている。これらの活動から中国の現状や日本とのつながりについても学んでいる。

東風東路小学校交流会

伝統文化を学ぶ会

③宿泊学習

団体行動の基礎を養う，また，現地理解を深める目的で宿泊学習を行っている。

【平成２５年度宿泊学習行先一覧】

小５：香港	※香港市内研修，香港現地校交流
小６：マカオ・珠海	※マカオ市内研修，マカオ現地校交流
中１：中山	※孫文に関する博物館等の見学・研修，日系工場見学
中２：シンガポール	※シンガポール市内研修・シンガポール現地校交流

※中２の修学旅行は，平成２４年の反日デモにより当初の北京から行き先を変更。

④小中一貫

ア）縦割り活動

小学部１年生から中学部３年生の全学年で縦割り班を作り，月に一回，昼休みに昼食を各班で食べ，その後，レクなどを行い交流を図っている。

イ）大運動会

縦割り班を４つに分け，赤・白・青・黄の４組に分かれて競う。後期に行われるため（今年度より変更），キャプテン等のリーダーは主に中学部２年生が行う。小学部５・６年生の組体操や中学部のカンフーは注目度が高い。

ウ）児童生徒会活動

小学部５・６年生・中学部の全員がいずれかの委員会に所属し，月１回委員会を開き,活動方針を確認しながら取り組んでいる。

エ）その他

学習発表会（中学部も参加）・ＪＳＧまつり・中３家庭科の小１訪問・中３の話を聞く会（小６）など，小中一貫の特性を生かした活動を展開している。

縦割り活動

大運動会

大運動会

⑤体力向上・促進

安全対策によるバス通学，治安の関係から外出が制限されるなどの理由から，海外では体を動かす機会が限られる。よって，本校でも体力向上が課題となっており，以下の取組を行っている。

ア）新体力テスト

～５月に実施。児童生徒の体力の傾向を把握している。

イ）水泳授業

～５月から９月の期間，週２時間体育の授業として行っている。

ウ）業間体育（小学部）

～定期的に中休みの時間を利用し，体力向上を図る取組を行っている。

エ）スポーツ大会

～１学期に小・中学部それぞれで行っている。

オ）部活動（中学部）

～週に３回１時間３０分程度，体力向上を目的として行っている。サッカー部・バスケットボール部は，現地のインターナショナル校との試合を行っている。

体育館

屋内プール（２５ｍ）

グラウンド（人工芝）
平成２６年完成

⑥その他

ア）避難訓練～計８回実施（火災・地震・不審者・バス引き取りなど）

イ）全国学力学習状況調査～独自実施・独自集計

ウ）深圳日本人学校との研修会・列車で１時間程度の距離で行き来が容易であることから，年に１度教職員の研修会を開催し，

（３）本校の課題と教育課程編成

①現状と課題

広州日本人学校の児童生徒数は４２１人（２０１３年５月）であるが，インターナショナルスクールなどに通う日本人が１００名程度いると言われている。必ずしも現地に日本人学校があるから通わせるではなく，海外を転々とする環境や国際化による英語の必要性など，保護者や子どもの通学への考えは様々である。よって，広州日本人学校ではさらなる特色ある学校づくりとともに児童生徒確保が課題となっている。

②教育課程編成

平成２６年度の教育課程編成の基本方針

ア　行事の精選と授業時数確保
イ　学力向上の到達目標を数値化
ウ　外国語（英語）教育の充実
エ　体力向上の推進
オ　小学部５・６年生の完全教科担任制の実施

ア）行事の精選について

日本人学校は小中一貫や海外の特性を生かした多くの行事があるが，それらを小学部と一緒に行うと中学部　は授業時数をいかに確保するかが課題となる。また，中学部は進路があるため，適切な時期の行事設定も重要となる。さらに，児童生徒確保のために広州日本人学校としての魅力ある特色を出すことも必要となる。様々な課題を踏まえた中で，以下の観点で行事の精選を行った。

○中学部の授業時数および外国語教育の時間確保のための行事精選。
○１学期は運動会を中心とした体力向上の推進を図る学期，２学期は文化的行事や学力向上を図る学期としての年間をも見通した行事の位置づけ。
○日中関係や現地理解教育を考慮した上での宿泊的学習の時期と場所の検討。
○小中一貫や現地理解教育の特色づくり。

イ）外国語（英語）教育の充実について

現在の世の中は英語が必須なのは言うまでもない。また，中国においても同様である。広州でもインターナ　ショナルスクールに通う日本の子どもたちが多い。児童生徒確保のために広州日本人学校としての魅力ある特色づくりの一つに外国語（英語）教育の充実があげられる。

□外国語（英語）教育の充実の概要（広州日本人学校ＨＰより抜粋）□
○中学部３年までの実践的英語の指導により，スピーキング力やリスニング力の向上を図り，実践的コミュニケーション能力を育成するために，小学１年から中学３年までの全学年で，外国語(英語)教育の授業時間を週１時間増やします。
○より早い時期から英語に触れられる指導により，英語に対する抵抗感を減らし積極的に学習に臨む姿勢を育成することをねらいます。
○小学校段階から英語教育を行うアジア諸国に対等できる児童・生徒を育成することをねらいます。
○小学部１～４年生(２時間)，小学部５・６年生(３時間)，中学部全学年(５時間)の全ての外国語（英語）指導にネイティブの先生を活用します。この際，小学部は，各学年のレベルを考慮し，１学年を３クラス編成で行うことで，少人数による個々にあった指導を目指します。中学部は4時間を学級単位で教科書を中心に授業をします。１時間は英会話の時間とし，１クラスを２グループに分けて授業をします。

ウ）小学部への教科担任制の導入について。

本校では以前より小学部は全学年で音楽・図工専科教員による教科担任制を行っており，他にも教員の持ち時数の関係で教科担任をとる学年・教科もある。その上で，より内容が高度になる高学年で教員の専門性を生かした質の高い指導を行うことで学力向上を図る目的で，また，専門的な幅の広い指導を行うことで，児童の学習意欲の向上や個々の個性・能力の向上を図ることを目指し，小学部５・６年生で完全教科担任制をすることとなった。ただし，必ずしも教員が適正に配置されない日本人学校の環境下で一致協力して進めるために，多くの配慮事項を確認しながら，教科担任制へのスムーズな移行を進めた。

3　おわりに

短い期間で大幅に教員が入れ替わり，また，教科などで適正な配置がなされない環境下の日本人学校で，日々の教育活動に携わることは，日本と違う大変さを味わった。その反面，限られた環境の中で日本と同等の教育を最大限行うことの創造性や海外でしか経験・体験できない特色ある教育活動などの学ぶことも多かった。

海外の厳しい環境の中で生活する児童生徒一人一人にとって，日本人学校が楽しい学びの場であり，夢や目標に向かって日々成長している場になっていることを願う。